

ケアワーカー介護実践の取り組み発表会

ケアワーカー介護実践の取り組みは、ケアワーカー（看護補助者）が担当患者さんの介護計画を立案し、実践していきます。

今年度は3名のケアワーカーが「患者さんの排泄自立に向けた取り組み」や「コミュニケーション方法を工夫した関わり方の実践」、「ご家族への介護指導、意思決定支援、退院支援」など幅広く取り組みました。



また、日々どのようなことを大切にしてケアをしているかを共有する機会となりました。

それぞれが立案した介護計画は、患者さんの回復への目標に寄り添ったものであり、状態をきめ細かく観察し、評価しながら実践されていました。

回復期リハビリテーション病棟では、多職種連携が肝となります。職種毎の役割を十分に発揮することはもとより、同職種、また多職種と目標を共有し協力しながら実践していくことが大切です。

「今後も患者様、ご家族を中心にチームの一員としての役割を発揮していく！」という熱意を感じる発表会となりました。

